イトヨ

イトヨは、トゲウオ科の魚で、体長は五センチあまりで、背びれに三本、しりびれと腹びれにとげをもっている。

イトヨは、海にすむ降海型と内陸にすむ陸封型に分けられ、国内の陸封型イトヨは、北海道、青森、福島、栃木、福井などに分布している。　喜多方にすむのは、陸封型で「トゲチョ」と呼び親しまれている。わき水の池やその下流の水温十八度前後の水域にすみ、市内では押切川、濁川、高吉、押切川公園や天満公園の池などに分布している。

早春から夏にかけて、流れのゆるやかな砂泥地に、オスが水草などで巣をつくる。巣が完成すると、ジグザグに泳ぐようにしてメスを巣に誘う。オスは巣に入ったメスの尾のつけ根あたりを口先でつついて産卵を促す。卵は約十日間でふ化し、稚魚はしばらくオスの保護を受けて過ごす。イトヨは、一年で成魚となるが寿命は他の魚と比べて短い。

会津染型紙

布地に模様を出す方法の一つに、模様が彫られた型紙を布に当て糊をおき模様の部分が藍に染まらないようにして布に模様をつける「型染め」がある。

型紙は、江戸時代、伊勢白子（三重県）の型紙が全国的に販売網を確立していた。このような中で、市内の小野寺家（現小野寺一弥氏宅）で、製造販売がおこなわれていた。喜多方には、良質の和紙がたくさんあったこと。さらには型紙に必要な柿渋がたくさんあったことなどが、栄えた要因であると考えられる。

型染めは、昭和の初めに染物屋が減少したことにより途絶えてしまった。しかし、永く小野寺家に保存されていた多くの型紙が市に寄付され、現在それらの分類調査中である。

所　在　地　字柳原　　郷土民俗館